

福島県立博物館では、使命に沿った「活動の指針」に基づき、それぞれに「重点目標」を掲げ、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な活動計画(中期目標)を定め、毎年度ごとに実績の評価を行ってきました。この中期目標は平成25年度に最終年度を迎えたため、これまでの実績を精査し、それに基づいて重点目標の見直しを行いました。そして、それを踏まえ、震災からの復興支援と博物館リニューアルの具体化を重要な課題として、新たに平成26年度から30年度までの5年間で達成するための第2期中期目標を策定しました。年間の利用者数については、従来どおり概ね9万人を目指し努力します。

平成28年度はこの計画に沿って事業を実施し、年度終了時に「評価指標」に基づいて実績を評価し、年報やホームページなどで公表します。評価の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善し、次年度には設定した指標を達成できるように努めます。利用者のみなさんには引き続き中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

また平成27年度には、東日本大震災後の館活動をめぐる変化に伴い、新たに始まった震災遺産や文化連携に関するプロジェクトを「活動の指針」の中に位置づけました。さらに、従来の利用者数以外に、職員が館外に出て行ったアウトリーチ事業やプロジェクト等の事業への参加者についても「館外事業利用者数」として把握し、当館の社会的な貢献度をはかる指標の試みとして公表することにしました。

|            | 第1期        |            | 第2期        |            |            |            | 説明   |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--|
|            | 平成25年度(実績) | 平成26年度(実績) | 平成27年度(実績) | 平成28年度(実績) | 平成29年度(目標) | 平成30年度(目標) |  |
| ①館内事業利用者数  | 109,838    | 63,739     | 67,490     | 61,073     | 90,000     | 90,000     | 常設展・企画展・移動展など展示への入場者、講座・講演会など行事への参加者<br>※平成26年度まで「利用者数」                |
| 累計利用者数     | 4,325,720  | 4,389,459  | 4,456,949  | 4,518,022  |            |            |  |
| ②館外事業利用者数1 | —          | —          | 1,765      | 2,109      |            |            | 職員の講師派遣・ゲストティチャーなどアウトリーチ事業への参加者<br>※平成27年度から新規                         |
| ③館外事業利用者数2 | —          | —          | 9,881      | 23,124     |            |            | 当館が構成団体になっている組織(実行委員会・協議会など)が主催し、当館職員が主体的に関わった行事などへの参加者<br>※平成27年度から新規 |
| ②③合計       | —          | —          | 11,646     | 25,233     |            |            | ※平成27年度から新規  |
| ①②③合計      | —          | —          | 79,136     | 86,306     |            |            | 上記①②③を合計したもの<br>※平成27年度から新規  |

利用者の内訳 ※( )内の数字は実施回数

|            |                     | 27年度        | 28年度        |                                  |
|------------|---------------------|-------------|-------------|----------------------------------|
|            |                     | ①館内事業利用者数   | 常設展         |                                  |
|            | 企画展                 | 9,897(3)    | 2,955(1)    | 企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」                |
|            | 無料入館者               | 16,826      | 14,391      | 行事等参加者および「藤森武写真展 みちのくの仏像」入場者等を含む |
|            | ①合計                 | 67,490      | 61,073      |                                  |
| ②館外事業利用者数1 | 学校派遣(ゲストティチャー)      | 490(8)      | 568(7)      |                                  |
|            | 館長出前講座              | 536(4)      | 61(1)       |                                  |
|            | 講師派遣                | 739(14)     | 1,480(28)   | ふくしま震災遺産保全プロジェクト関係の講師派遣を含む       |
|            | ②合計                 | 1,765(26)   | 2,109(36)   |                                  |
| ③館外事業利用者数2 | ふくしま震災遺産保全プロジェクト    | 5,639(16)   | 17,916(37)  | 白河セッション・仙台セッション・明大セッションなど        |
|            | はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト | 4,069(58)   | 4,989(43)   | 成果展長岡・足利・新発田・松本・須賀川・つなぎなど        |
|            | 磐梯山ジオパーク            | 33(2)       | 134(4)      | 地質の日ジオツアー・いわき展示講演会・磐梯大学講座        |
|            | ふくしまサイエンスふらっとフォーム   | 140(1)      | 85(1)       | サイエンス屋台村                         |
|            | ③合計                 | 9,881(77)   | 23,124(85)  |                                  |
|            | ②③合計                | 11,646(103) | 25,233(121) |                                  |

達成度の記入方法  
 ◎:達成 ○:ほぼ達成 △:一部達成 ×:達成  
 成りせず

| 機能                          | 活動の指針            | 重点目標                          | 実現方策   | 30年度目標                                       | 28年度評価指標  | 28年度実績   | 達成度 | 29年度評価指標  |
|-----------------------------|------------------|-------------------------------|--|--|---|--|-----|---|
| 専門機能                        | 1. 地域の文化遺産の収集と継承 | ①博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進       | 収集方針に沿って系統的に資料を収集し、受け入れた資料の整理・登録を行う。   | 5年間で収集資料5,000件の整理登録達成。                       | 各分野の整理計画に基づき実施。5分野合計で1,000件の整理・登録。                                      | 考古:216件、民俗217件、歴史283件、美術4件、自然203件、合計:923件の資料登録を実施した。   | ○   | 中期目標の5,000件の登録は既に達成したが、各分野の整理計画に基づき引き続き実施。5分野合計で1,000件の整理・登録。   |
|                             |                  | ②二次資料の整理とデータベース化の促進           | 司書を継続雇用し、学芸員の研究に資するため、新規収集図書等の整理・登録を進める。また、5年後までに既存図書の未修正データの修正を完成する。さらに、増加する図書の収蔵スペースを確保するための計画を立てる。          | 5年後までに既存図書の未修正データ4,394件の修正完了。                | 既存図書のデータ900件の修正を行う。   | 既存図書のデータ942件の修正を行った。また司馬遼太郎記念館寄贈図書等新規受入図書の登録を2904冊実施。  | ◎   | 既存図書のデータ900件の修正を行う。   |
|                             |                  | ③博物館資料に関する情報の公開               | 平成25年度において資料管理システムの更新が完了したので、収集資料情報の確認と修正が済んだデータから順次インターネットで公開する。  | 5年間で25,000件のデータをインターネットで公開する。                | 5分野合計で5,000件のデータをインターネットで追加公開する。  | 考古:1001件、民俗1016件、歴史1460件、自然2539件、合計:6016件の資料データを追加公開した。  | ◎   | 5分野合計で5,000件のデータをインターネットで追加公開する。  |
|                             |                  | ④資料の安全な保存                     | 収集資料数の増加に伴い収蔵スペースの確保が課題となってきたため、収蔵庫内の再整理を行うとともに、関係機関と協議して、新たな収蔵場所確保に努める。                                       | 資料の新たな収蔵場所を確保する。                             | 収蔵庫内の整理を計画的に進め、特に震災遺産の収納場所を検討する。第2収蔵庫の棚増設について検討を進めるとともに、予算要求の準備を行う。     | 第1収蔵庫の民俗資料は、本年度約200件を整理した。第5収蔵庫の全面的な整理・清掃を実施し、震災遺産のうち温湿度変化の影響を受けにくい資料の一部を収蔵した。第2収蔵庫は、震災遺産の収蔵エリアの構築を検討した。   | ◎   | 効率的な資料受入と保管のため、未燻蒸資料の燻蒸計画を作成し、年1回以上の燻蒸を実施する。収蔵庫内の整理を計画的に進め、特に震災遺産の収納場所を検討する。第2収蔵庫の棚増設について検討を進めるとともに、予算要求の準備を行う。 |
|                             |                  | ⑤新たな視点に立ったIPM(総合的有害生物管理)の導入   | 資料の生物被害を防止するために使用する化学物質の排出量を最小限に抑える方策を具体化する。   | IPM活動の観点から、収蔵庫の定期清掃など、環境整備を行う体制を確立する。        | 昨年度改善した清掃計画に基づき、第1、2、3、4、6収蔵庫の清掃を実施する。第5収蔵庫の清掃を試案する。                    | 第1、2、3、4、6収蔵庫の清掃計画は有効的に機能しなかったが、第1、2、4収蔵庫の清掃を実施した。第5収蔵庫の清掃を実施した。   | ○   | 実行的な清掃計画を確立する。  |
| 2. 最新の研究による資料価値の発見          |                  | ①連携した研究活動の推進                  | 研究活動の充実を図るため、大学や文化施設、民間の研究団体等との共同研究を進める。また、それらの研究成果をさまざまな場で公開する。   | 共同研究の継続実施と研究成果の公開。                           | 引き続き、さまざまな機関との共同研究を実施し、その成果を館内外で公開する。                                   | 国立歴史民俗博物館・明治大学などの共同研究に当館学芸員が加わった。また博学連携事業として会津大学と展示関連ソフト開発を行った。  | ○   | 引き続き、さまざまな機関との共同研究を実施し、その成果を館内外で公開する。   |
|                             |                  | ②多様な外部資金の確保                   | 調査研究事業などの博物館事業を円滑に推進するため、引き続き財源確保に努める一方、外部助成資金の導入など新たな財源の確保を図る。  | 調査研究事業などの博物館活動を円滑に推進するために、新たな資金確保のシステムを構築する。 | それぞれの研究分野に応じた研究助成について情報を収集し、2件以上の研究助成等を獲得する。                            | 科学研究費補助金(奨励研究)1件を受けた。  | △   | それぞれの研究分野に応じた研究助成について情報を収集し、2件以上の研究助成等を獲得する。  |
| 3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援 |                  | ①リニューアルの推進                    | 次世代博物館のあるべき姿を検討するため、新設館や先進的な取り組みをしている他館の状況を現地調査する。そして、その結果などを踏まえ、後半期にはリニューアルに関わる検討委員会を設置し、基本構想および基本計画の策定に着手する。 | 博物館リニューアル基本計画の策定。                            | 基本構想の策定に向けて、検討委員会設置の準備をはじめ。館長講座をリニューアルに関する内容として、広く意見を募る場のひとつにする。        | 現状の課題・問題点を整理し、基本構想策定の前段階となる方針について検討した。委員会設置の準備はできなかった。毎月の館長講座を通じて、リニューアルに向けての意見を聴取することができた。  | △   | 基本構想の原案を作成し、館内での協議・検討を行う。前年度にできなかった検討委員会設置の準備をはじめ。  |
|                             |                  | ②誰にでもわかりやすい常設展の展開             | 学校で学ぶ子供たちがより利用しやすくなるように、展示室内の表示の工夫や解説の改善を展示室ごとに順次実施してゆく。さらに、外国語による解説の充実に向けて検討を進める。                             | すべての展示室において、学校団体向けの表示や解説の改善を完了させる。           | 試行として行った展示の表示の工夫などを本格的に実施する。展示室の外国語表記・解説の充実は、館外の協力を得られる可能性を検討し、情報を収集する。 | 展示室の各所に「おすすめ」展示の表示を設けた。学校団体向けのプログラムを再構成し、新たなプログラムの実施準備を行った。外国語表記については、対訳語の種類等について情報を集め、翻訳などの協力を得られる機関を確認した。  | ○   | 新たな学校団体向けプログラムを実施する。外国語パンフレット作成のための予算化を図るとともに、展示室の外国語解説の手法について検討する。   |
|                             |                  | ③魅力あふれる企画展・特集展の開催             | 福島の復興や再生に寄与するテーマ・内容を優先し、時間をかけて準備するオリジナル企画と、タイムリーな企画などをバランスよく組み合わせ、企画展・特集展を計画的に実施する。                            | バラエティーに富んだ企画展・特集展を計画的に実施する。                  | オリジナル企画による企画展や特集展を最低1回実施。   | オリジナル企画の企画展1回および特集展4回を実施した。  | ◎   | オリジナル企画による企画展や特集展を最低1回実施。   |
|                             |                  | ④来館者とのコミュニケーションを大切にしたい展示解説の推進 | 来館者と職員が直接に触れあい、コミュニケーションを図ることを重視した展示解説を今後も心がける。  | きめ細かな展示解説のシステムを維持するため、展示解説員の人員を確保する。         | 「やさしい展示解説」をリニューアルし、来館者対話型の「けんぱくハイライトツアー」として土・日・祝日に実施する。                 | 対話型解説システム「けんぱくハイライトツアー」を新規に導入し110回実施した。のべ参加者は348人。   | ◎   | 対話型解説システム「けんぱくハイライトツアー」を、土・日・祝日を中心として毎月6回実施する。  |
|                             |                  | ⑤継続性のある講座の開催                  | 講座の体系化とストーリー性をもたせたシリーズ化を引き続き進め、利用者の継続参加を促進する。また、企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。                                     | 生涯学習に効果的な魅力ある講座・講演会を継続開催する。                  | 引き続き、魅力的な講座・講演会を企画する。30周年でもあり、回数、参加者数は前年度を超える数を目指す。                     | 講座等の開催回数は前年を5回上回る120回、参加者は908人増加で8218人であった。館外活動として、館長出前講座を含むゲストティーチャー8回、講師派遣28回、2109名に対して実施した。企画展・特集展関連事業は昨年とほぼ同じく26回実施した。30周年イベントは17回行い、2250人が参加した。 | ◎   | 引き続き、魅力的な講座・講演会を企画する。回数は100回程度とし、参加者数は一昨年度並みの7000人を目標とする。   |

| 機能              | 活動の指針              | 重点目標  | 実現方策  | 30年度目標  | 28年度評価指標   | 28年度実績   | 達成度   | 29年度評価指標   |
|-----------------|--------------------|---|---|---|--|--|---|--|
| 交流機能            | 4. 楽しめて出会いのある空間の創出 | ①利用者の快適性と利便性の促進   | ミュージアムショップを友の会を活用して設置することは困難な状況のため、その運営のあり方をリニューアルに向けた計画案を策定するなかで検討する。                                    | ミュージアムショップの設置を目指す。  | ミュージアムグッズの開発と販売の試行を行う。   | グッズの開発・販売はできなかった。近隣の博物館・美術館のミュージアムショップの運営形態に関する調査を行った。   | ×   | ミュージアムグッズの開発と販売の試行を行う。   |
|                 |                    | ②体験型学習機会の促進   | 新たな体験学習メニューを開発し、学校団体の選択肢を増やすとともに、内容を充実させる。学校との連携強化を図るため、ワークショップなどの体験型学習を効果的に取り入れたイベントを企画する。               | 学校との連携を強化し、利活用を容易にする。   | 引き続き、新たな体験学習メニューの開発をめざす。回数、参加者数は前年度を超える数を目指す。  | 昔の道具体験が大幅に要望が増え、多人数学校対応として3クラスを同時に動かすプログラムを新たに作成し実行した。体験学習メニューの実施回数は32回976名であった(前年度は27回、670名)。         | ◎   | ワークショップなどの体験学習を取り入れたイベントに取り組む。                                   |
|                 | 5. 博物館事業への住民参加     | ①各種団体との連携促進   | NPOなど地域の文化団体や各種学会などからの展示会や講演会の開催依頼には、博物館活動の趣旨に沿うことを条件に積極的に対応する。また、共同企画を立ち上げるなど、事業の連携を進める。                 | 共催事業などの受け入れを行う。   | 外部団体からの要請に対して、引き続き積極的に対応する。30周年でもあり、友の会の事業を積極的に受け入れる。  | 共催事業は、ギャラリー展1回、映画会1回、復興応援パートナー事業2回、博学連携事業5回、友の会との共催事業8回を含む計17回行い、後援事業は7回行った。展示観覧者以外の延べ参加者は1872人であった。   | ◎   | 外部団体からの要請に対して、引き続き積極的に対応する。友の会の事業を積極的に受け入れる。                     |
|                 |                    | ②ボランティアの受入  | 資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進するとともに、今後のボランティアのあり方について検討する。   | 自然資料整理ボランティア(通年)、古文書整理ボランティア(月1回)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援。                                    | 自然資料整理(通年)・古文書整理(月1回程度)・民俗資料整理(月2回程度)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援。   | ボランティアは、自然分野では資料整理(1人×3日)、特集展展示作業補助(2人×1日)を受け入れ、作業への協力を得た。古文書整理は毎月1回、民俗資料整理は毎月2回、定期的に作業を行った。           | ◎   | 自然資料整理(通年)・古文書整理(月1回程度)・民俗資料整理(月2回程度)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援。     |
| 6. 博物館情報の発信と公開  | ①効果的な広報の展開         | 外部の各種メディアおよび学校や社会教育施設への情報提供を継続する。また、ホームページによる広報も継続するとともに、新しい広報媒体も活用する。                            | ホームページによる広報の強化を図るとともに、新しい広報媒体を活用する。   | フェースブックの運用を開始し、テレビCMスポットや地域FMへの定期的な出演など新たな媒体を活用した広報を展開する。                                   | フェースブックを週1回程度更新した。テレビCM2回実施。月2回のFMラジオに出演した。  | ◎  | 館フェースブック、県ツイッターをさらに活用し、HPのリニューアルを検討。新たな広報媒体による展開を検討。企画展・特集展・催し物担当者との事前打合せにより、アピールポイントを把握し、広報に生かす道筋を検討、試行する。 |  |
| 7. 地域ネットワークの拠点  | ①市町村の関係機関との連携促進    | 調査研究・展示・学習支援・広報活動などの場とおとして、県内の社会教育・生涯学習施設などとの連携をさらに促進させて事業を展開する。                                  | 県内市町村関係機関との連携事業を計画的に実施する。   | 引き続き、県内の学校教育・社会教育・生涯学習担当者を対象とした研修会などの連携事業を実施する。移動展実施に努める。                                   | 博物館利用指導者研修会を企画したが、応募者が少なく実現しなかった。当館が事務局となっている福島県博物館連絡協議会において「博物館での学びを考える」というテーマで研修会を企画・実施した。移動展は行わなかった。            | △  | 引き続き、県内の学校教育・社会教育・生涯学習担当者を対象とした研修会などの連携事業を実施する。移動展実施に努める。   |  |
| 8. 新しい観光ニーズへの対応 | ①観光集客力の回復          | 東日本大震災以降低迷が続いている学校団体による学習旅行件数を回復させるため、また、新たな地域からの集客数増加を目指すため、県の関係機関や観光事業団体とも連携して、効果的な広報のあり方を検討する。 | 学習旅行などの観光集客力の回復と新たな地域からの集客数の増加を目指す。   | 駅貼りポスターや、地域FMへの定期的な出演(再掲)などを新たに始める。学校団体の動向を分析し、対応の改善について検討する。                               | ポスターを春の企画展では駅、SAIに掲出。冬の特集展はミニコミ誌に広告掲載、会津鉄道に広告掲出。ラジオ放送は地域FMに月2回出演。効果の検証を行う必要がある。チラシを観光旅館ホテル等に重点的に配布した。学校団体動向分析は未対応。 | △  | 観光ポータルサイト等への掲載、会津地域のイベントに柔軟に対応した広報展開を検討する。学校団体の動向を分析し、対応の改善について検討する。  |  |
| 運営機能            | 9. 使命の明示と事業の点検     | ①使命・目標の策定   | 使命に基づき、平成30年度を目標年度とした中期目標を作成する。目標はその達成度などから評価・点検を毎年行い、それをもとに事業計画の修正を行うとともに、評価・点検の結果を年報やホームページで公表する。       | 第2期中期目標に基づいた評価・点検の実施と5年間の総括。  | 平成27年度の達成状況を年報・ホームページで公表する。  | 平成27年度の達成状況を年報・ホームページで公表した。  | ◎   | 平成28年度の達成状況を年報・ホームページで公表する。                                      |
|                 |                    | ②利用者ニーズの把握と対応   | 運営・設備・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートや統計調査を実施し、結果を分析することで、博物館活動における課題や利用者のニーズを把握する。その結果は広報活動や各種事業の企画立案に反映させる。 | 各種アンケートの結果を分析して、博物館活動の課題および利用者ニーズを的確に把握する。そして、それらに対する具体的な対応状況をホームページで公表する。利用者満足度80%以上達成の維持。 | アンケートや日報に書かれた利用者の声に対しては、可能な範囲ですみやかに対応・検討する。集計や分析は、各事業の担当以外に、リニューアル検討チームでも実施し、公表の方法なども検討する。                         | アンケートや日報に書かれた意見には、可能な範囲で対応した。アンケートの集計・分析の結果は、館内会議で随時報告した。また過去7年間の常設展アンケートの意見を、リニューアルのための課題・問題点として整理した。 | ○   | アンケートや日報に書かれた利用者の声に対しては、可能な範囲ですみやかに対応・検討する。集計や分析、公表の方法について再検討する。 |
|                 | 10. 人材の育成と機能的な組織   | ①学芸員の専門性の重視   | 各種学会や研修会に積極的に参加し、新しい博物館活動を進めていく上で学芸員に求められる多様な能力の向上に努める。   | 各種学会や研修会に参加し、その成果を学芸員全体で共有するとともに、博物館業務へも効果的に反映させる。  | 各種学会や研修会への参加(5回以上)と報告会など館員への情報提供を行う。   | 学会は6回、研修会は3回参加。報告会は行わなかったが、資料の回覧・配布は適宜行い、情報共有に努めた。   | ◎   | 各種学会や研修会への参加(5回以上)と報告会など館員への情報提供を行う。                             |
| 11. 危機管理        | ①来館者の安全確保          | 火災や地震に備えて避難手順や救命措置を確認するため、各種訓練を実施する。  | 防災訓練およびAED研修の年1回実施。   | より現実的な訓練内容に更に改善しながら、関係機関との連絡体制も具体的に行うなど、実際の災害を想定した訓練になるようにする。                               | 自衛震災避難訓練として、平成28年12月21日に実施した。地震対応訓練:自衛消防隊各班が役割に沿った行動を行った。避難訓練:地震によって発生した火災の避難誘導等訓練。参加人数40名。                        | ◎  | より現実的な訓練内容に更に改善しながら、関係機関との連絡体制も具体的に行うなど、実際の災害を想定した訓練になるようにする。   |  |
|                 |                    |   |   |   |  |  |   | ②施設の安全管理   |

| 機能          | 活動の指針                    | 重点目標                      | 実現方策   | 30年度目標   | 28年度評価指標   | 28年度実績   | 達成度 | 29年度評価指標  |
|-------------|--------------------------|---------------------------|--|--|--|--|-----|---|
| 震災からの復興支援   | 12. ふくしまの宝の発掘と保全         | ①被災文化財等の救出と保全             | 県や市町村の関係機関、文化施設、大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、当該地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・研究し、その価値を明らかにすることに努める。            | 博物館活動の一環として、被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料の保全を図るとともに、それらに関する調査研究の成果を報告書としてまとめる。 | 関係機関と連携して、被災地からの文化財レスキュー活動を継続するとともに、今後の災害に備えたしくみづくりなどを検討する。  | 「福島県被災文化財等救援本部」に参画し、被災文化財等の収集や整理等を継続して行った。対応のべ日数18日、人数31人。今後の災害に備えたしくみづくりについては未検討に終わった。  | △   | 被災文化財等に対する活動の継続とともに、今後の災害に備えたしくみづくりについて検討し、報告書作成の準備を行う。                                 |
|             | 13. ふくしまの宝の公開と活用         | ①救出文化財等に関する情報公開           | 救出および新たに収集した文化財等やそれらに関する研究成果を、さまざまな形で発信する。関係機関からの協力を得ながら、被災地域から救出された資料を中心に、常設展などで公開する。                   | 被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料を常設展資料の重要な核と位置づけ、新たな展示手法を駆使して公開する。                | 被災地域から救出・収集された文化財・自然資料等を展示公開する機会をできるだけ多く設ける。併せて文化財レスキューの活動も紹介する。   | 被災地域から救出・収集した資料の一部を、特集展「南極の自然と南極観測」「収蔵庫からこんにちは」、テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」「けんばくの宝」において展示公開した。レスキュー活動を紹介したパネル展示も行った。                     | ◎   | 被災地域から救出・収集された文化財・自然資料等を展示公開する機会をできるだけ多く設ける。併せて文化財レスキューの活動も紹介する。                        |
|             | 14. ふくしまの再生と活性化          | ①文化資源を活用した各種事業の開催および支援    | 県や市町村の関係機関、各種文化団体等と連携し、地域の復興と再生、活性化に向けたさまざまな文化事業を実施するとともに、各種団体が企画する文化事業への支援も行う。特に被災地域の歴史・文化活動への支援を充実させる。 | 館内外において、地域の復興と再生、活性化に向けた各種支援事業を実施する。                                     | 各種団体からの要請に対してはハードルを低くして対応する。引き続き避難者を誘客する講座等を開催する。  | 福島県内の桜をテーマにした映画「福島桜紀行」を上映した。3.11には、会津地方振興局との共催で「復興のつどい2017」を実施した。震災遺産展に合わせて、せんだいメディアテークおよび柏崎市被災者サポートセンターあまやどりと連携してエントランスホールにてパネル展を行った。 | ◎   | 各種団体からの要請に対してはハードルを低くして対応する。引き続き避難者を誘客する講座等を開催する。                                       |
| 次世代ミュージアム機能 | 15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承 | ①震災遺産の保全と活用のための基盤整備       | 東日本大震災で生じた震災遺産を歴史資料及び博物館資料と位置付けるため、総合博物館の特色を活かした横断的な組織「震災遺産」分野を構築し、調査・保全および普及事業を実施する。                    | 核となる職員を配置した「震災遺産」分野を確立し組織的な事業展開を実施する。                                    | ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会に参画し、調査収集・普及事業等を行う。新たに「風評被害」「保存処理」「聞き取り」「海外発信」に重点を置く。また博物館活動における「震災遺産」分野の位置づけを検討する。 | 震災遺産の調査収集事業を25回、普及事業を26回実施した。とくに学校関連の研修や出前授業の回数が増加した。風評被害の対応に係る震災遺産の収集、脆弱遺物の強化や脱塩処理および海外発信事業を予定通り実施した。館内会議で博物館における震災遺産分野組織の検討を実施した。    | ◎   | 核となる職員の配置と「震災遺産」分野確立に向けて、他機関との連携・資料収集保全・調査研究・展示・普及事業などの各事業を既存の博物館活動に位置づけるとともに、その試行を進める。 |
|             | 16. 新たな文化事業の創出と定着        | ①県内各地域における文化事業の創出支援、運営の協働 | 博物館が蓄積してきた情報、手法、ネットワークを基盤に、「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」等を効果的に活用し、県内各地域で新たな文化事業を創出・定着させる。                        | 創出した事業を地域に定着させ、実施団体や事務局によって安定的に運営されるようにする。                               | 各事業の定着・継続と自立を支援し、博物館が対等の立場で協働できる体制を構築する。   | 南相馬市博物館・須賀川市・いわき市・浪江小学校・浪江町等で連携・展開してきた事業は一部が各連携先の自主的事业に応用・展開された。   | ○   | 成果展等各事業の実施を通して実行委員会の企画・運営力を向上し、次年度以降の各地域での事業創出に取り組む。                                    |

|           |   |
|-----------|---|
| 平成28年度の総評 | <p>本年度は、目標達成を平成30年度に設定した第2期中期目標の3年目である。</p> <p>○利用者数について、館内事業利用者数は昨年より約6千人の減少。当初の目標である9万人には至らなかった。企画展（「大須賀清光の屏風絵と番付」）が1回のみ（前年度は3回）で、移動展も実施されなかったこと、特別展（「新たな国民のたから・文化庁購入文化財展」）および特集展（「南極の自然と南極観測」「収蔵庫からこんにちは・福島県立博物館収蔵名品展」）の入場者数を、企画展の場合のように別カウントしなかったことなどが理由。一方で、おもに館外で展開した「ふくしま震災遺産保全プロジェクト事業」や「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト事業」などへの参加者は多く、館外事業利用者数が大幅に増えた結果、利用者数全体をみると、前年度より約7千人増加している。</p> <p>○「専門機能」では、2-②「多様な外部資金の確保」、3-①「リニューアルの推進」が「△（一部達成）」にとどまり、前年度から引き続いて課題を残した。</p> <p>○「交流機能」では、4-①「利用者の快適性と利便性の促進」が「×（達成できず）」となった。目標とするミュージアムショップの設置が難航している状況にある。7-①「市町村の関係機関との連携促進」は移動展の応募がなく実施しなかったため、また8-①「観光集客力の回復」は学校団体の動向分析などが行えなかったため、それぞれ「△（一部達成）」にとどまった。一方で、前年度に「△（一部達成）」にとどまった4-②「体験型学習機会の促進」や6-①「効果的な広報の展開」については改善がみられた。</p> <p>○「運営機能」は、おおむね達成度が高かった。</p> <p>○「震災からの復興支援」では、12-①「被災文化財等の救出と保全」が「△（一部達成）」にとどまった。レスキュー活動は継続できたが、今後の災害対策など一歩進んだ目標には手をつけられなかった。</p> <p>○「次世代ミュージアム機能」は、達成度が高かった。</p> |
|-----------|---|